|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 1 | 人間は他人のための手段となってはならないし，他人を道具として利用してもいけない。そのように人格の尊厳を説いたドイツの哲学者は誰か。 |  |
| 2 | 道徳的な価値判断の基準を人間行為の動機に求めるような考え方を何というか。 |  |
| 3 | 義務に基づく行為こそが道徳的行為であるとする，義務を重んじるカントの立場のことを何というか。 |  |
| 4 | 法と道徳の根源は「最大多数の最大幸福」であるとした，イギリス功利主義の思想家は誰か。 |  |
| 5 | 個人の幸福と社会全体の幸福との調和をはかることを目的とした思想を何というか。 |  |
| 6 | 道徳的な価値判断の基準を人間行為の結果に求めるような考え方を何というか。 |  |
| 7 | 利己的な人間であっても社会のなかで生活するのであるから，社会の問題を解決し，最大多数の人々の幸福をもたらすようにしなければならないとした趣旨のベンサムの言葉は何か。 |  |
| 8 | 19世紀のイギリスで，ある個人が他人の権利を侵害しない限り，その人の自由を国家や社会が制限できないと考え，『自由論』を著したのは誰か。 |  |
| 9 | 立場の強い者がすべてを指示し，弱い立場の者がそれに従う家父長的温情主義の考え方を何というか。 |  |
| 10 | ベンサムが快楽計算の数値を最大のものとするために必要と考えた，外からの強制のことを何というか。 |  |
| 11 | 快楽と苦痛の比較計算により幸福の量を数値化できるという考え方を何というか。 |  |
| 12 | 快楽に質的な差異のあることを認め，次元の高いものこそが人間の幸福の大きな要因になると考えたＪ．Ｓ．ミルの立場を何というか。 |  |
| 13 | 人の思想や行動が制限されるのは他人に危害を与えるときだけであるという考え方を何というか。 |  |
| 14 | 第二次世界大戦中にアウシュヴィッツ強制収容所に送られ，その極限的な状況で生きた人間の精神状態を『夜と霧』に著したウィーン出身の心理学者は誰か。 |  |
| 15 | ハンセン病療養所に勤務した精神科医で，著書『生きがいについて』において，もっとも生きがいを感じる人は使命感を持って生きている人であるとしたのは誰か。 |  |
| 16 | カントの唱えた自他の人格を互いに尊重しあう理想的な社会（共同体）を何というか。 |  |
| 17 | いかに愚かに見える行動であっても，他者に危害を及ぼさない限り，それに干渉することは正当ではないという権利概念を何というか。 |  |
| 18 | 世界の根源に「我－汝」という人格同士の対面関係があるとした思想家は誰か。 |  |
| 19 | 暴走するトロッコを例として「ある人を助けるために他の人を犠牲にするのは許されるか」という考察を通じて，倫理学上の判断基準を問う問題を何というか。 |  |